「ＩＣＴ機器活用」グループ

〈あすなろ分教室グループ〉大柏徳行、佐藤陽子、及川香、松野貴美子、佐藤圭
〈中学部グループ〉　千葉佳絵、阿部薫、石坂直康、檜山祐子、千葉登志美、中村和弘
〈高等部グループ〉　中條明美、小野寺晴満、佐々木祐子、髙橋尚憲、横田美枝子、伊藤宏子、田髙美佳、後藤晃子、佐藤京子、千田一輝、及川よりこ、久慈美香、宮田大地、菅原和浩

１　研究テーマ　「ICT を活用した授業づくり」

実際の授業や指導場面で ICT を活用した実践を行い、指導効果を上げる具体的な活用の方法や事例について研究し、その成果と課題、今後の展望についてまとめる。

２　研究内容

（１）授業や指導場面での具体的活用に関する研究
　→学部、学習集団等の小グループごとの取り組み
　ア　あすなろ分教室
　イ　本校舎中学部
　ウ　本校舎高等部
（２）活用方法の学び（小グループごと、必要に応じて）

３　研究計画

日にち	形態	グループ全体	小グループ
２９．５月	全員	今年度の方向性について・ アンケート配布	テーマ、内容により小グループ編成 メンバー決定
６月	小 G①	推進計画作成について	推進計画書作成
７月	小 G②		研究実践
８月	小 G③		研究実践
９月	小 G④		研究実践、学部毎検討会①
１０月	小 G⑤		研究実践、学部毎検討会②
１１月	全員	実践報告、全校研究会に向けて	
１２月	全員	全校研発表内容検討・確認	
３０．１月	全員	第２回全校研究会	

４　成果と課題

（１）成果

本グループ１年目は、主に教師のスキルアップと校内への情報発信を目指し取り組んだ。

ア　活用方法の学び
（グループ内で ipad 講習会を実施、参考資料や外部研修会等からの情報収集・整理）
イ　授業や指導場面での活用　の２点を重点として研究実践を行った。

成果としては
・実施、基本操作と本校のルールを学び、そこで得た情報を活用できた
・グループメンバーには資料を印刷配付またはフォルダ内に保存することで、校内の誰でも必要な時に見られるようになった
・児童生徒は iPad への関心・意欲が高かった
・分からなくても使うことで課題が見えてきたり、周囲に対しても「使おう」という雰囲気づくりにもなった

そこで２年目は、１年目の経験を生かし、実際の指導場面での活用をねらいとして、グループメンバーが日々行っている授業の中でそれぞれ実践を重ねた。

各学部や小グループでの実践の成果を、以下のようにまとめた。

ア　（児童生徒）ICT 機器を活用することの良さに気づく

・児童生徒一人ひとりの学び・経験の広がり
・誰かとつながる、伝わる、共有する経験
・困難さを補うことで「楽しかった」「よくわかった」「うまくできた」経験から「やってみたい」意欲へ
・その人なりの「自立」「社会参加」の手がかりへ

イ　（教師）新たな気づき

・児童生徒の実態から「それを使って、何をさせたいのか」「使うことによって、何が可能になるのか」「どういう姿を目指すのか、どうなってほしいのか」ふさわしい活用方法を探る
・課題の共有…熟知している教師に尋ねる・周囲と相談する
・変化を共有…実践の様子から児童生徒の新たな一面に気づく・教師間で共有する
・ICT 機器の特長を生かした、より効果的・発展的・利用しやすい活用方法を探る

これらのように、ICT 機器の活用を通し、児童生徒、教師双方にとって様々なメリットや、新たな観点が得られたことを、グループ全員で確認することができた。

（２）課題

1 年目の課題としては、

・個人スキルの差があるので、まずは触れてみる、毎日使い慣れることが必要
・資料を収集、保存し広く活用を図ったが、見ずに終わるおそれもある
・児童生徒側の個人スキル、身体状況の違い、意欲の向上という面で難しさがある
・使用するに当たってのルール指導の必要性、ふさわしいアプリ選定について
・そもそも ICT 機器・iPad の「効果的」活用とは何か

以上のことが挙げられた。

2 年目の課題としては、

・利用環境の整備→当面、既存のもので工夫して使用していく
・指導者側の研修の継続（「合理的配慮」「新学習指導要領」の観点から）
・活用事例の蓄積・整理と、誰にでも引き出せ、活用しやすい「事例集」など
・児童生徒の実態に応じたルール整備と指導の必要性
・卒業後の利用について

等が挙げられた。

今後も各方面と調整し検討しながら、様々な場面での活用を探っていきたい。